

[注：斜体字部分は訳者による注釈で、WCFO 発表の英語原文にはありません。英語原文は WCFO ウェブサイトのトップページ: worldcaninefreestyle.org に掲載されていますのでそちらをご確認ください]

[2013 年 5 月 1 日発表]

2013 WCFO ルールズフォーラム投票結果

WCFO, Inc.は、ルールズフォーラム議長 Cherlye Homoth の過去数ヶ月間にわたる多大なる尽力に対し心より感謝を表明します。

投票結果は以下の通りです。

ルール変更案 1：

毎年四半期毎に開催されるビデオコンペティションの締切日は下記の通りです。

クォーターリービデオコンペティション(Quarterly Video Competitions)：

- ・ マーチコンペティション (March Competition) - 各年 3 月 31 日
- ・ ジューンコンペティション (June Competition) - 各年 6 月 30 日
- ・ セプテMBERコンペティション (September Competition) - 各年 9 月 30 日
- ・ ディセンバーコンペティション (December Competition) - 各年 12 月 31 日

[変更の要旨：各ビデオコンペティションの名称を「季節名」から「月名」表記に変更します]

賛成：79 票 反対：5 票

ルール変更案 2：

犬とハンドラーは、ルーティンの演技を終えた直後に最長 1 分間リング内で遊ぶことができます。この時間はトレーニングの時間として与えられたものではありません。また、フード類（トリーツ等）をリング内に持ち込むことはできませんが、おもちゃ類の使用は許可されます。エントリー多数のためスケジュールが過密になっている競技会においては、競技会主催者が各競技者に許される遊び時間を短縮することができます。そのような変更がある場合には、主催者は競技会開始前に競技参加者に対して告知しなければなりません。

[変更の要旨：これまで慣習的に行われていたものの、ガイドライン内で明確に規定されていなかった「ご褒美としてのルーティン終了後の遊び時間」について明記するものです]

賛成：55 票 反対：27 票

ルール変更案 3：

ミュージカルフリースタイル(Musical Freestyle：以下 MF)とヒールワークトゥミュージック(Heelwork-To-Music：以下 HTM)の2カテゴリとは別に、新たなカテゴリ「スキット (Skits：寸劇)」を設けます。

[変更の要旨：MF・HTL では「音楽に合わせてステップする」ことが必要要件となっていますが、トリック中心のルーティンや演劇性の高いルーティン等音楽に合わせたステップを踏むことが難しいルーティンを念頭にして、この要件を除いたカテゴリを新たに設けることを提案するものです]

賛成：19 票 反対：61 票

ルール変更案 4：

ライブ・ビデオコンペティションともにリングの設営においては、リングの入口・出口は幅4フィート(約122cm)以上でなければなりません。全ての競技会において、リングホワイエ(犬の飛び出し等による事故を防ぐために設ける、リングゲート等で囲まれた小さな緩衝エリア)をリング出入口に隣接した形で設置します。演技終了後、犬のリードはホワイエを出る前につけなければなりません。ウォームアップエリアもしくはリング内で競技中の場合を除き、犬はリードにつながれていなければなりません。もしリングホワイエが設置不可能な会場・場所の場合は、競技会主催者の判断により代替手段を講じてもかまいません。

[変更の要旨：1) 全ての競技会での公平性を保つため、リングの出入口幅を新たに規定します。2) 安全性を高めるため、これまで主催者(ビデオコンペティションの場合は競技者)の判断に任されていたリングホワイエの設置を原則的に義務化します。3) リードをつける場所を規定します。4) これらはライブ・ビデオコンペティション共に適用となります]

賛成：48 票 反対：33 票

ルール変更案 5：

サッシーシニア部門 (Sassy Senior : SS) とハンディダンディ部門 (Handi-Dandi : HD) でも MF と HTM の 2 つのカテゴリを設けます。

[変更の要旨 : 現在 SS・HD では HTM はなく MF のみですが、今回新たに HTM も設けます]

賛成 : 79 票 反対 : 4 票

ルール変更案 6 :

ルーティンの演技時間 (最短時間と最長時間) は各部門のレベル毎に定められています (各レベル・レグ/タイトルに関するガイドラインの項を参照のこと)。レグもしくはタイトル獲得要件を満たすためには、ルーティンは規定演技時間内に終えなければなりません。各規定演技時間に対し、許容時間として 15 秒以内の短縮または延長が認められます。もしルーティンが ±15 秒の許容時間を含めた総規定時間に満たない場合もしくは総規定時間を超えた場合には、そのルーティンは失格となります。

[変更の要旨 : 現在のガイドラインでは音楽・ビデオプレイヤーの再生性能の誤差を想定して「±15 秒の許容時間」が設定されていましたが、技術向上によりこの誤差は発生しなくなっているため、プレイヤー性能を目的とした旨の文言を削除し、より一般的な意味での「許容時間」と定義し直します]

賛成 : 60 票 反対 : 18 票

ルール変更案 7 :

ライブコンペティションでは、全てのハンドラーは自らの責任において、ルーティンに使用する音楽を競技会開始前に音楽デスク (担当者) に渡します。音楽は CD にコピーし、競技者の名前・競技部門・曲名を記載した CD を 2 枚用意します。競技会主催者は、競技者に音楽を事前に E メールにて送付してもらい、音楽担当者のコンピューターに保存させておく方法をとってもかまいません。ただしこの場合、主催者は、事前に音楽を E メールできない競技者のために、競技者が当日会場に CD を持ち込む方法も許可しなければなりません。

[変更の要旨 : 現在のガイドラインでは音楽は「カセットテープもしくは CD」での持ち込みとなっていたましたが、もはやカセットテープはあまり使われなくなっているため、カセットテープに関する文言を削除します]

賛成：52 票

反対：31 票

ルール変更案 8：

下記の部門・レベルにエントリーした競技者は、リード付きでルーティンの演技をするか、リードなしで演技するかを選択することができます。

- ・ アダルト部門(Adult divisions)ビギナー(Beginner)レベル (AクラスまたはBクラス)
- ・ ジュニア部門(Junior divisions)ファーストレベル(First Level)ならびにセカンドレベル(Second Level)
- ・ サッシーシニア部門全レベルにおいて視覚障害もしくは聴覚障害の犬が競技する場合
- ・ ハンディダンディ部門全レベルにおいて視覚障害もしくは聴覚障害の犬が競技する場合
- ・ ペアーズ部門(Pairs)、ブレース部門(Brace)、ならびにチーム部門(Team)の全レベルにおいて視覚障害もしくは聴覚障害の犬が競技する場合

** 視覚障害もしくは聴覚障害の犬がペアーズ部門、ブレース部門、もしくはチーム部門にエントリーした場合、それらの犬は全レベルにおいてリード付きで演技してもかまいません。一方、それらの障害を持つ犬と一緒に競技する、視覚障害もしくは聴覚障害を持っていない犬は、ビギナーレベルを除きリード付きで演技することはできません。

[変更の要旨：ペアーズ・ブレース・チーム部門でも障害犬がリード付きで競技することを許可し、それらの犬が競技に参加できる機会を増やします]

賛成：75 票

反対：5 票

ルール変更案 9：

ブレース部門・ペアーズ部門・チーム部門では、リード付きで競技することが認められている犬・ハンドラー（例：ビギナーレベル、障害のためにリード付きでの演技が認められている犬、等）はリード付きで演技する一方、残りのメンバーはリードなしで演技してもかまいません。リード付きで競技することが認められている犬・ハンドラーのみ、上記部門でリード付きで競技することが許されます。

[変更の要旨：現在ペアーズ・ブレース・チーム部門ではリード付き・リードなしで競技するかメンバー全員で統一しなければなりません、ルール変更案 8 に伴い、メンバーに障害犬を含む場合、リード付き・リードなしの混在で競技することができるように変更します]

賛成：71 票

反対：11 票

ルール変更案 10：

許可されているアイテムであれば何であれ小道具として使用することができます。ただし、小道具類を使用・提示する際には、犬の態度や意欲などに著しい変化があってはなりません。しかし、もし犬とハンドラーが一体となり、生き生きとした、ハーモニーのある演技・チームワークを見せる場合には、たとえ犬の頭や目が小道具の動きを追いかけたとしても減点対象となることはありません。

小道具を誘導アイテムとして使用してはなりません。例えば、犬の頭の前や上に小道具をかざし続け、犬をある一定方向へ誘導するために使用することはできません。小道具を犬に提示し、犬が伸び上がったリタッチするよう仕向けることで犬の頭や前半身を高くし、それによって犬の歩様をより良くしようとするような使い方も認められません。もし小道具をこのような方法で使用した場合、そのルーティンは失格となります。

[変更の要旨：許可される小道具の使用方法をより明確に規定します]

賛成：55 票

反対：17 票

ルール変更案 11：

サッシーシニア部門、ハンディダンディ部門、ペアーズ部門、ブレース部門、チーム部門を含む全ての競技部門において HTM カテゴリを設けます。

[変更の要旨：現在 HTM が設けられているシングルス以外の全部門でも HTM を新設します]

賛成：72 票

反対：8 票

ルール変更案 12：

WCFO 会員が、WCFO 主催の競技会に出場する場合のみ、下記の表の通り「WCFO フリークエントダンサーポイント(WCFO Frequent Dancer Points)」が与えられます。

- ・ MF シングルス(Singles)、HTM シングルス、HD シングルス、SS シングルス、ジュニア MF、ジュニア HTM、ジュニアブレース - 1 ポイント
- ・ MF ペアーズ、MF チーム、ジュニアペアーズ、ジュニアチーム - 1 人につき 0.5 ポイント
- ・ プロフィシエンシーテスト(Proficiency Test) - 0.5 ポイント

- ・ イノベーション(Innovation) - 0.5 ポイント

[変更の要旨：付与されるポイントの変更（ジュニア・イノベーションに関してポイント増加）]

賛成：67 票 反対：10 票

ルール変更案 13：

HTM の各ルーティンにおいて、審査基準となるヒールワークポジション（犬-ハンドラー間の位置関係ならびに距離関係）は、最初に犬がハンドラーの左脚側もしくは右脚側につき、犬とハンドラーが同じ方向を向いて同じ方向に同じ速度で動いている間に決められます。そのポジションは、単にある位置から別の位置へのトランジション（移行）としてではなく、ジャッジが「ポジション」として認識するのに十分な一定時間、維持されなければなりません。

[変更の要旨：現在のガイドラインでは基準となるヒールワークポジションはルーティン開始後 15 秒間の平均的ポジションで決定されますが、新たなルール案ではルーティン開始からの経過時間に関わらず、最初に左右どちらかでいわゆる「ヒール」をした時に決定されます]

賛成：63 票 反対：18 票

ルール変更 14 案：

小道具の設置や撤去に要した時間が 1 分を超えた場合、またはハンドラーのみによって行われなかった場合-ライブ・ビデオコンペティションのいずれにおいても、総技術点から 1.0 ポイントならびに総芸術点から 1.0 ポイントの減点となります。

[変更の要旨：小道具設置時間・方法に関する規定がビデオコンペティションの場合にも適用となります]

賛成：59 票 反対：24 票

ルール変更案 15：

（上記の小道具設置に関するルールが採択されたと仮定して）ビデオコンペティションでは、リングならびに小道具を設置している様子を撮影し、エントリーするビデオ映像に含める必要があります。小道具設置の映像は、ハンドラーの衣装・犬のカラーを撮影した映像付近におさめます。

[変更の要旨：ルール変更案 14 に伴い、ビデオコンペティションでは小道具設置映像を含めてビデオを提出します]

賛成：60 票 反対：22 票

ルール変更案 16：

サッシーシニア部門とハンディダンディ部門において、各レベル（ビギナー(Beginner)・ノービス(Novice)・インターメディアイト(Intermediate)・アドバンスト(Advanced)）毎に順位が決定され、それぞれのレベルにおいて 1 席から 3 席に入った競技者には入賞メダルが授与されます。

[変更の要旨：現在 SS ではビギナー&ノービス、インターメディアイト&アドバンストの 2 つに分けて順位付け、HD では全レベルを統合して順位付けをしていますが、これを 4 レベル各々で順位付けするように変更します]

賛成：81 票 反対：1 票

ルール変更案 17：

ライブ・ビデオコンペティションにおいて、不合格となったルーティンには入賞メダルは授与されません。しかし、その他の賞については受賞選考対象となり得ます。

[変更の要旨：現在は不合格となったルーティンでも入賞対象となりますが、合格したルーティンのみ入賞対象となるよう変更します]

賛成 48 票 反対：31 票

ルール変更案 18：

ビデオコンペティションに関するルールから「(ビデオ) テープ」という文言を削除します。

[変更の要旨：既にビデオテープでビデオコンペティションに参加することはできなくなっているため (DVD のみ)]

賛成 : 78 票 反対 : 5 票

ルール変更案 19 :

アダルトチーム部門-3～6組のハンドラー&犬のユニットから構成されるグループ。ジュニアハンドラーもアダルトチームの一員として参加できますが、ジュニアの人数がそのチーム内の過半数を超えてはなりません。

ジュニアチーム部門-3～6組のハンドラー&犬のユニットから構成されるグループ。ジュニアのチームは全員ジュニアハンドラーで構成されていなければなりません。

[変更の要旨 : 1) チーム構成人数の上限を新たに設定します。 2) アダルトチーム内で参加できるジュニア数を規定します]

賛成 : 52 票 反対 : 28 票

ルール変更案 20 :

HTM カテゴリでは小道具の使用は一切禁止します。

[変更の要旨 : MF と明確な区別をつけ、ヒールワークの技能により焦点を当てるため、HTM では小道具の使用を禁止します]

賛成 26 票 反対 : 54 票

ルール変更案 21 :

競技者は通常クラス(A・B)でタイトルを獲得した後も、同じレベルの“エキスパート(C)”クラスにエントリーすることができます。

審査基準は通常クラス(A・B)も“エキスパート(C)”クラスも同じです。順位はそれぞれのクラスで別々に決定されます。“エキスパート(C)”クラスで3回合格するとスペシャルタイトルを獲得できます。また、合格1回毎に1ポイントが与えられます。スペシャルタイトルを獲得した後も引き続き“エキスパート(C)”クラスでエントリーすることは可能ですが、その場合はポイントのみが付与され、それ以上のタイトルは得られません。100ポイントを獲得した競技者には特別認定状が授与されます。

[変更の要旨：あるレベルでタイトルを獲得した後も引き続き同じレベルで競技し続けることができます
(現在はタイトル獲得後 75 日間までしか許可されていない)]

賛成：79 票 反対：24 票

ルール変更案 22：

許可される犬の装飾品に関する項に以下の項目を追加します。

6. 滑りやすい床で演技する際の滑り止め効果を目的とした、シンプルで飾り気のない、足裏に滑り止めがついた足カバー（ブーツ）

[変更の要旨：リング床が滑りやすい素材の場合、安全性を高めるために滑り止め足カバーをつけることを許可します。これは装飾目的ではありません]

賛成：59 票 反対：19 票

新たなルール変更を提案してくださった皆様に心より感謝申し上げます。また、今回の変更が実現できたのは投票に参加してくれた会員皆様のお陰です。本当にありがとうございました。

WCFO, INC

[ルールズフォーラム履歴]

2011 年 4 月 26 日～10 月 31 日：ルール変更提案受付

2013 年 3 月 13 日～4 月 8 日：変更案に対する議論・投票期間

2013 年 5 月 1 日：投票結果発表

*投票で賛成数が過半数を超えた変更案は採択となります

2013 年 10 月 1 日（予定）：新ガイドライン施行

*今回のルールズフォーラム投票結果の翻訳は、2013 年 10 月 1 日（予定）に施行されるガイドライン変更の要旨・概要を事前に情報提供することで、ルール改訂を可能な限りスムーズに進めることを目的としたものです。実際の新ガイドラインでは、ルールズフォーラム変更案にある文言・表現等の詳細とは異なる

る可能性があり、本翻訳は新ガイドラインの内容を細部まで保証するものではありません。あくまで現時点での参考としてご理解いただければ幸いです。正式なルールは今後発行される新ガイドラインに準拠します。予めご了承ください。

(訳責：市川陽子・ビア美香子)